

地域密着型金融推進計画の推進状況(要約)

(1) 地域密着型金融推進計画の進捗状況(17年4月～18年9月)

平成17年4月から18年9月までにおける「地域密着型金融推進計画」に関する進捗状況について、次のとおりご報告いたします。

「地域密着型金融推進計画」につきましては、当金庫にとって、地域経済の再生・活性化と中小企業金融の円滑化を目指す掘りどころであり、早期に実効をあげるべく取り組んでまいりました。

企業への経営支援、ランクアップに資する「目利き力ある人材」の育成を目指し、業界内研修へ営業店長を継続して派遣し、また研修後の復命研修を実施し、経営改善等に関する支援能力の向上を図りました。その結果、経営改善支援に資する能力を備えた人材が育ってきております。またその知識を、金庫内普遍なものとするため、勉強会や研修を行っております。

しかしながら経営改善支援につきましては、今年度より先数を増加して29先といたしましたが、予想以上の当該企業業種の低迷により、ランクアップを果たしておりません。ランクダウンを防いだと判断できる事例もありますが、今後は更に取組みを強化し、支援先の実態により適した支援と管理を行い、ランクアップを目指してまいります。

また、担保・保証に過度に依存しない融資推進として、「クイック応援団」の利用拡大を目指し、限度額の引上げと融資条件の緩和を行いました。18年3月からは保証会社の付保を条件としない「しんきん秋田スギ住宅ローン」を発売し、県産木の消費拡大と併せ、推進を図っております。

個人情報に関する管理や、与信取引に関する説明、苦情処理について、規定およびマニュアルを整備し、全課店について監査を行い、管理および正当な取扱いの徹底を図っております。

1月に行なった顧客満足度調査を分析検討し、調査結果を全職員に還元し周知徹底を図りました。また6月には調査結果をホームページに掲載しております。利用者の満足度向上に資する簡易な事案については、すぐに対応し改善を行っておりますが、経営に反映させる施策の策定や、業務改善までにはいたっておりません。

今後も「地域密着型金融推進計画」を着実に実施することが、利用者から信頼され当金庫の財務体質、収益力強化につながるものと確信し、地域経済の再生・活性化に寄与し、中小企業金融の円滑化を図るべく努力してまいります。

(2) ① 大項目毎の進捗状況、進捗状況に対する分析・評価及び今後の課題

大項目	17年4月～18年9月の進捗状況		18年9月までの進捗状況に対する分析・評価及び今後の課題 (18年9月までの成果、今後の課題に対する対応方針等を含む)
		18年4月～18年9月の進捗状況	
①事業再生・中小企業金融の円滑化	<p>①「経理担当者研究会」「うごしんクラブ」を開催。ビジネスマッチング登録会員企業の増強を図りました。</p> <p>②経営改善支援実施企業は29先となりましたが、ランクアップ先はありません。</p> <p>③「与信取引に関する顧客への説明態勢に係る規則」を制定しました。</p>	<p>①経理担当者研究会を開催し、情報交換と経営相談・企業支援を強化しました。</p> <p>②「クイック応援団」の利用推進のため、18年9月に制度の一部改正をしました。</p> <p>③HP上で経営改善への取組実績表、および公表数値目標の達成状況を公表しております。</p>	<p>①今後も企業経営の支援や、経理担当者の啓発、経営相談等の支援を図ってまいります。</p> <p>②クイック応援団の利用拡大のため、18年9月に融資限度額、融資条件の緩和を行っており、引続き担保・保証に過度に依存しない融資を推進いたします。</p> <p>③営業店より経営改善支援動向報告書の提出を求め、支援状況をチェックし支援への取組みを強化しました。特に支援先の実態に合った支援と管理を行います。</p>

大項目	17年4月～18年9月の進捗状況		18年9月までの進捗状況に対する分析・評価及び今後の課題 (18年9月までの成果、今後の課題に対する対応方針等を含む)
		18年4月～18年9月の 進捗状況	
②経営力の強化	<p>①資金運用基準を見直し、ポートフォリオ分析を行いました。</p> <p>②個人情報データの再点検を実施し、また金融商品販売における取引の適切性について調査を実施しました。</p>	<p>①自己資本比率算出について、監査課の検証を受け、精緻化を図りました。</p> <p>②個人情報に関する「保護監査規程」「保護監査マニュアル」を制定し、個人情報保護の監査を実施しております。</p>	<p>①バーゼルⅡの導入に向け、関係各課と連携を取りながら準備を進めます。</p> <p>②半期開示に損益の状況を載せるよう検討しております。</p> <p>③新会社法施行に伴い、定款や理事会規定を一部改正し、理事会の機能発揮の拡充を図りました。</p> <p>④新渉外支援システムの導入を予定しております。</p>
③地域の利用者の 利便性向上	<p>①多数のお客様の協力を得て、顧客満足度調査を行いました。</p>	<p>①顧客満足度調査結果について分析を行い、6月にHP等で情報開示を行いました。</p>	<p>①顧客満足度調査活動を継続し、利用者ニーズを把握して顧客の利便性向上に努力します。</p>

(2) ② アクションプログラムに基づく個別の取組みの進捗状況

項目	具体的な取組み	スケジュール		進捗状況	
		17年度	18年度	17年4月～18年9月	18年4月～18年9月
1. 事業再生・中小企業金融の円滑化					
(1) 創業・新事業支援機能等の強化	1. 業界団体の研修に継続して受講者を派遣し、庫内研修と併せ職員の能力向上を図ります。 2. 中小公庫との業務提携、信金中金・商工会・保証協会との連携強化、情報共有化を図ります。	・外部研修の受講 ・内部研修(復命研修を含む)の実施 ・中小公庫との業務提携 ・信金中金・商工会・保証協会との連携強化 ・ブロック別渉外支援制度を活用した情報提供・支援強化	・外部研修の受講 ・内部研修(復命研修を含む)の実施 ・中小公庫との業務提携 ・信金中金・商工会・保証協会との連携強化 ・ブロック別渉外支援制度を活用した情報提供・支援強化	1. 業界団体の「目利き力養成講座」に営業店長を派遣。また、受講者を講師とした庫内研修も実施。 2. 17年9月から12月まで、また18年9月から「ブロック別新規開拓渉外支援活動」を実施。ベンチャー企業発掘のための情報収集、新事業支援を推進。	1. 業界団体「目利き力研修」に営業店長を派遣。 2. ブロック別渉外支援におけるベンチャー企業の発掘、情報提供を行った。
(2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化	1. 「経理担当者研究会」「うごしんクラブ」を継続し、取引先ニーズに対応します。 2. 「うごしんビジネスマッチング」も一層の推進を図ります。 3. 業界団体開催研修への受講者継続派遣、保証協会・商工会との連携強化、中小企業診断士の育成を図ります。 4. 経営改善支援先を各店1先追加し支援を強化します。	・「経理担当者研究会」「うごしんクラブ」の開催による取引先ニーズへの対応 ・ビジネスマッチングの一層の推進 ・業界団体開催研修への受講者継続派遣、保証協会・商工会との連携強化、中小企業診断士の育成を図る。 ・経営改善支援先を各店2先とし、支援を強化する。	・「経理担当者研究会」「うごしんクラブ」の開催による取引先ニーズへの対応 ・ビジネスマッチングの一層の推進 ・業界団体開催研修への受講者継続派遣、保証協会・商工会との連携強化、中小企業診断士の育成を図る。 ・経営改善支援先を各店2先とし、支援を強化する。	1. 毎年「経理担当者研究会」等情報交換会を開催し、経営相談・企業支援を強化。 2. しんきんビジネスマッチング登録会員推進キャンペーンを実施、35先の企業が登録するが、商談成立までに至らず。 3. 東北地区信用金庫協会の外部研修に営業店長を継続派遣し、復命研修も実施。 4. 17年度に経営改善支援先15先追加するも、ランクアップ無し。 5. HP、ディスクロージャー誌において経営改善支援先数、ランクアップ先数の公表を行った。	1. 毎年「経理担当者研究会」等情報交換会を開催し、経営相談・企業支援を強化。 2. ビジネスマッチングに対応できる体制を整備。 4. 経営改善支援実施先29先、ランクアップ無し。 5. HP上で経営改善支援先を公表。
(3) 事業再生に向けた積極的取組み	1. 外部研修による企業再生の人材育成と、ノウハウの蓄積を図ります。 2. 「中小企業再生支援協議会」「信金中金(総合研究所)」との関係強化で再生支援に活用を図ります。 3. 中小公庫との情報交換を企業再生支援に活用します。	1. 外部研修による企業再生の人材育成と、ノウハウの蓄積を図る。 2. 「中小企業再生支援協議会」「信金中金(総合研究所)」との関係強化で再生支援に活用を図る。 3. 中小公庫との情報交換を企業再生支援に活用	1. 外部研修による企業再生の人材育成と、ノウハウの蓄積を図る。 2. 「中小企業再生支援協議会」「信金中金(総合研究所)」との関係強化で再生支援に活用。 3. 中小公庫との情報交換を企業再生支援に活用 4. 再生支援実績、再生ノウハウ等の事例の公表	1. 東北地区信用金庫協会の外部研修に職員を継続派遣し、人材育成・ノウハウの蓄積を図った。 2. 中小企業再生支援協議会と意見交換するが、対象企業はない。 3. 中小企業基盤整備機構よりの講師派遣にてセミナー開催。	1. 東北地区信用金庫協会の外部研修に職員を継続派遣し、復命研修を実施。 2. 秋田県中小企業再生協議会利用の検討を行った。
(4) ① 担保・保証に過度に依存しない融資の推進等	・「クイック応援団」「売掛債権担保融資」の積極的推進を図ります。 ・適正貸出金利(プライシング)の設定を検討します。	・「クイック応援団」「売掛債権担保融資」の積極的推進を図る ・適正貸出金利(プライシング)の検討を行う	・「クイック応援団」「売掛債権担保融資」の積極的推進を図る	クイック応援団の推進のため、18年9月に制度一部改正し、利用拡大を図った。 18年3月より保証会社保証を条件としない「しんきん秋田スギ住宅ローン」を発売し、併せて県産木の消費拡大図った。	保証協会との提携で担保・保証に過度に依存しない取扱いを推進。 クイック応援団の制度改正による利用拡大推進。
(4) ② 中小企業の資金調達手法の多様化等	・知識習得のため、中小公庫・信金中金関連会社からの講師を要請し、ノウハウの蓄積を図ります ・地域CLO等について情報を集め検討します。	・知識習得のため、中小公庫・信金中金関連会社からの講師を要請し、ノウハウの蓄積を図る ・地域CLO等について情報を集め検討する	・知識習得のため、中小公庫・信金中金関連会社からの講師を要請し、ノウハウの蓄積を図る ・地域CLO等について情報を集め検討する	県内3金庫で情報の共有化を図った。	7月に開催された、県信用金庫協会主催の「シンジケートローン研修会」に出席し、ノウハウを取得。

項 目	具体的な取組み	スケジュール		進捗状況	
		17年度	18年度	17年4月～18年9月	18年4月～18年9月
(5)顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化	・顧客向け説明対応マニュアル等の整備を図り、庫内研修等の周知徹底を行い、苦情発生時の分析・対応方法・防止策等を営業店に還元し、発生防止を強化します。	・顧客向け説明対応マニュアル等の整備を図り、庫内研修等の周知徹底を行い、苦情発生時の分析・対応方法・防止策等を営業店に還元し、発生防止を強化する。 ・監査部門の強化を図り、営業店実効性向上に努める。	・顧客向け説明対応マニュアル等の整備を図り、庫内研修等の周知徹底を行い、苦情発生時の分析・対応方法・防止策等を営業店に還元し、発生防止を強化する。 ・監査部門の強化を図り、営業店実効性向上に努める。	1. 17年8月に「与信取引に関する顧客への説明態勢に係る規則」を制定、営業店長への説明会を実施、全職員への周知徹底を図る。監査部門もチェック表により検証を行った。 2. 苦情等の分析結果をコンプライアンス責任者研修で取上げ、再発防止を検討。取引の適切性確保についても徹底した。	1. 「与信取引に関する顧客の意思確認要領」「顧客向け説明対応マニュアル」を制定し、職員への周知徹底を図り、監査部門でその確認を行った。 2. 苦情等の分析結果による営業店へ事例を還元し、対応方法、再発防止への研修を行った。
(6)人材の育成	・業界団体開催の「目利き力養成講座」へ店長を継続派遣します。 ・通信講座「目利き力養成講座」の受講勧奨します。	・業界団体開催の「目利き力養成講座」へ店長を継続派遣 ・通信講座「目利き力養成講座」の受講勧奨	・業界団体開催の「目利き力養成講座」へ店長を継続派遣 ・通信講座「目利き力養成講座」の受講勧奨	東北地区信用金庫協会の「目利き力養成講座」へ、営業店長を年2回派遣。 復命研修を庫内で実施し、ノウハウ蓄積および能力向上に努めた。	「目利き力養成講座」への営業店長を派遣し、知識の習得を図った。

項目	具体的な取組み	スケジュール		進捗状況	
		17年度	18年度	17年4月～18年9月	18年4月～18年9月
2. 経営力の強化					
(1) リスク管理態勢の充実	1. 現在の自己資本比率算出の検証、及び新リスク算出方法の検討を行います。 2. 市場リスク管理を更に充実させ、有価証券ポートフォリオ分析と計画化を図ります。 3. 情報開示の拡充を図ります。	2. 資金運用基準の見直し 市場リスク管理要領の見直し 有価証券ポートフォリオ分析	1. 自己資本比率算出方法の検討 2. 資金運用基準の見直し 有価証券ポートフォリオ分析 3. リスク管理態勢の情報開示拡充を検討	1. 自己資本比率算出に関しより精緻化を目指し、また監査課による検証を受けた。 2. 17年10月に資金運用基準の見直しを行い、同11月に債券ポートフォリオ分析を行った。 毎月有価証券のリスク量を把握し、常務会へ提出。	1. 自己資本比率算出に関しより精緻化を目指し、また監査課による検証を受けた。
(2) 収益管理態勢の整備と収益力の向上	1. 内部格付制度の構築を目指します。 2. 標準金利設定のための内部基準を整備します。 3. 管理会計を整備し、部門毎の収益管理を目指します。	1. 個人事業主信用リスクデータの入力開始 2. 標準金利設定基準を整備する。 3. 管理会計による営業店毎の収益把握	1. 個人事業主信用リスクデータの活用 内部格付制度の検証開始 2. 標準金利設定基準を検証する。 3. 管理会計の整備、業績等の管理	1. 内部格付と自己査定の変務者区分の整合性向上を図る。現在整合率78.64%。 3. 営業店毎の収益把握を検討したが、収益把握にいたらず管理会計の深度が図られていない。	1. 個人事業主信用格付導入とプライシング基準要領の整備は未実施。 3. 管理会計による収益把握まで至っていない。
(3) ガバナンスの強化	1. 半期開示の内容に関し、業界団体の検討を踏まえその充実に努力します。 2. ガバナンス強化のため、業界団体の検討を踏まえ、会員の意見等を総代会に反映させる方法を検討します。	1. 半期開示の内容を充実し公表します。 2. ガバナンス強化については業界団体の検討を踏まえ対応します。	1. 半期開示の内容を充実し公表します。 2. ガバナンス強化については業界団体の検討を踏まえ対応します。	1. 17年11月半期開示ディスクロージャー誌発行し、同時にHPにも公表。 2. 17年11月半期開示ディスクロージャー誌発行し、同時にHPにも公表。	1. 18年7月期末開示ディスクロージャー誌を作成し、HPに載せ公表。 2. 新会社法の施行に伴い、定款と理事会規定を改正し、理事会の機能発揮の拡充を図った。
(4) 法令等遵守(コンプライアンス)態勢の強化	1. 営業店に対する法令等遵守状況の点検強化を検討します。 2. 個人データの安全管理について年1回の監査を実施します。 顧客情報管理チェックリストの作成と定着化を図ります。	1. 営業店における法令等遵守状況の点検を検討 2. 個人情報管理チェックリストの作成 個人情報管理に関する全店全部署監査実施	1. 営業店における法令等遵守状況の点検・指導等を実施 2. 個人情報管理に関する全店全部署監査実施	1. 営業店のコンプライアンス研修は毎月実施、法令遵守に対する意識が向上。 2. 個人情報保護に係る個人データの再点検を17年10月～12月に実施、金融商品販売に係る取引の適切性について調査を実施した。	1. コンプライアンス臨店指導を開始。 2. 個人情報保護監査規程、同監査マニュアルを制定し、全課店につき監査を実施。
(5) ITの戦略的活用	1. ATM等撤退の金融機関の情報収集を図ります。 2. 設備投資の検証を実施します。 3. ITに係る人材の育成を図ります。	1. ATM等撤退の金融機関の情報収集を営業店に指示 2. 設備投資の検証を実施 3. 庫内にてIT関連研修を実施する。	1. ATM等撤退の金融機関の情報収集を営業店に指示 2. 設備投資の検証を実施 3. 庫内にてIT関連研修を実施する。	2. 17年6月にコミュニケーションサーバーを導入。	この期間の進捗特になし。
(6) 協同組織中央機関の機能強化	1. 信金中金の分析能力を活用した市場リスク管理態勢の強化を目指します。 2. 信金中金提供機能商品の検討と活用を目指します。	1. 有価証券ポートフォリオ分析を信金中金に依頼 2. 信金中金提供商品の検討と活用	1. 有価証券ポートフォリオ分析を信金中金に依頼 2. 信金中金提供商品の検討と活用	1. 17年11月に有価証券ポートフォリオ分析を行い、当金庫の有価証券運用の注意点を確認。 2. 信金中金収益還元策の、延長特約付定期および特別定期を利用。	2. 信金中金の提供商品検討するも利用出来ず。
3. 地域の利用者の利便性向上					
	1. 地域貢献に関する情報開示をより積極的に行い、当金庫預金が地域で活かされている状況を分かりやすく開示します。 2. 利用者からの質問事項等をQ&A方式にまとめ、開示を検討します。 3. 顧客満足度調査を行い、結果分析の上経営改善に活かす努力をします。 4. 地公体、地元商工会などの情報強化に努め、地域振興の関与に勤めます。	1. 地域貢献情報開示の検討 3. 顧客満足度調査を実施し、分析の上対応を協議 4. 地域活性化に向けた案件の発掘、情報収集を図り、地公体との関係を強化する	1. 地域貢献情報開示への取り組み 第1次Q&Aの作成公表 3. 顧客満足度調査の結果分析と、対応策の公表を行う。対応策の実行 4. 地域活性化に向けた案件の発掘、情報収集を図り、地公体との関係を強化する	1. HP・ディスクロージャー誌において、地域貢献情報に図表等を加え、充実を図った。 3. 1月に顧客満足度調査を実施した。調査結果を18年6月にHP等で情報開示。 4. 地域活性化に向けた案件発掘、情報収集を継続して実施。	1. 7月、ディスクロージャー誌に地域貢献情報を掲載。 3. 顧客満足度調査の結果を6月にHP等で情報公開。 4. 地域活性化に向けた案件発掘、情報収集を継続して実施。

公表数値目標の達成状況(17年4月～18年9月)

信用金庫名 羽後信用金庫

公表数値目標の内容	公表数値目標 (注1)(注2)		実績	評価	「推進計画の進捗状況(18年度上期)」において達成状況を公表(予定を含む)している公表数値目標	備考
	18年9月末 (17～18年度上期中) 目標	19年3月末 (17～18年度中) 目標	18年9月末 (17～18年度上期中) 実績	18年9月末時点 での目標に対する達成状況 の評価 (注3)		
コア業務純益	—	300百万円以上	182百万円	②	○	
経常利益	—	150百万円以上	180百万円	②	○	
自己資本比率	—	18%以上	23.00%程度	①	○	

(注1)「公表数値目標」とは、「地域密着型金融推進計画」(以下「推進計画」)において公表した数値目標です。

(注2)19年3月末(17～18年度)[2年間]、または18年9月末(17～18年度上期)の公表数値目標を設定しない場合は「—」を記載しております。

(注3)「18年9月末時点での目標に対する達成状況の評価」については、
 <19年3月末(17～18年度)[2年間]の公表数値目標を設けている場合>
 「19年3月末(17～18年度中)の目標を概ね上回る見込みで順調」の場合は「①」を記載、「19年3月末(17～18年度中)の目標の達成に向け概ね順調」の場合は「②」を記載、「19年3月末(17～18年度中)の目標の達成に向け引き続き努力」の場合は「③」を記載しております。